



赤ちゃんを抱っこし、笑顔を見せる児童

2017. 5. 24

小さいけど

赤ちゃんの登校日 命の重さ

乳児とその保護者らが小学校を訪問し、児童と触れ合う「赤ちゃんの登校日」が22日、湯梨浜町小鹿谷の東郷小学校で行われた。児童たちは小さな赤ちゃんをしっかりと抱きしめ、命のぬくもりや子育ての苦労を感じ取った。

将来、親になる子どもたちに早い段階から乳幼児との触れ合いを体験させ、命の大切さや子育ての大変さを学ばせるのと同時に、子育て中の親にも児童の姿を通してわが子の成長をイメージしてもらおうと、町子育て支援課が企画した。

東郷小児童

触れ合い楽しむ

町内在住の乳児と母親や祖母11組と、同校の5年1組の児童31人が参加。数人ずつのグループに分かれて触れ合いを楽しんだ。

児童は、赤ちゃんのほおや手を触ったり、おもちゃであやしたりしながら「普段はどんなことをしているの」と母親らに質問。母親から「抱っこしてみよう」と促されると、ぎこちない手つきながらもしっかりと抱きしめ、温かさを実感していた。

孫の泰一ちゃん(8カ月)を連れて参加した北村直子さんは、「小さな存在に寄り添う姿はとても楽しそうで、育ててくれた親の気持ちを子どもなりに感じてくれたと思う」と話していた。

赤ちゃんの登校日は、町内全小学校の5年生を対象に順次実施。赤ちゃんは数カ月後に再び登校し、児童に成長した姿を見てもらおう。